

平成 30 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： あお空グループホーム釜石

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391100047		
法人名	有限会社 介護施設あお空		
事業所名	あお空グループホーム釜石		
所在地	岩手県釜石市片岸町第2地割13番地28		
自己評価作成日	平成30年7月20日	評価結果市町村受理日	平成30年10月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成30年8月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

働きやすい職場環境づくりに力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小規模多機能センターと高齢者優良有料賃貸住宅が併設され、相乗効果を生みだしながら、「笑顔で楽しく」を理念として利用者の支援に当たっている。震災後、地域資源との連携に重きを置き、福祉・行政・教育等の課題を協議する会合等にも出席し、これまで以上に地域と馴染んだ事業所となる様に努力している。また介護と医療の連携を図り、不安のない終末期ケアが出来るよう努めている。ホーム内では利用者の得意分野を引き出し、様々な絵・工作等の作品を出品・掲示し、利用者への生き甲斐に繋げている。三施設共同で使用している広いホールでの、日々の食事を始めとする様々な寛ぎを通じ、今後、ノーマライゼーション的な効果が生まれてくることが期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

[評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

平成 30 年度

事業所名 : あお空グループホーム釜石

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	すべての職員に理念が浸透しているとは言いがたく努力不足を感じている。しかし外来者からの感想は雰囲気がいいですねと言われる事がしばしばある	職員のアンケートを総合的に集約し、グループホームと併設する小規模多機能センターの共通理念を「笑顔で楽しく」とし、日々、リズム感のあるケア業務を心がけている。一層の向上を目指し、毎月の会議での振り返りを行っているとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々と少しづつでは、あるが行事などや会合を通じて交流が進んでいる。	震災後、地域の会合は当施設で行われるようになり、地域との交流を図りやすい環境になってきている。実際、お花見の際には30名の地域住民に参加いただき、また敬老会には保育園の子供たちも来所してくれて大変な賑やかさだった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員や居宅介護支援事業所を通じて小規模多機能の特性を理解していただけるように努力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議のメンバーの方達も重要な社会資源として協力を頂きながら事業運営を進めている	小規模多機能センターとの合同開催も交えながら、外部評価の結果について報告し意見を頂いている。また、委員の提案でお花見には地域の方々にも呼び掛け、また、地域の花植えには事業所も参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期では連絡会議に出席して情報、意見交換をしている。	事業所周辺は小高い場所にあることから、津波一次避難所に指定され、時折発生する地震や警報等の発令時には、市から安否確認を含めた連絡電話を頂いている。運営推進会議や市主催の連絡会議の際にも情報連絡や意見交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	制度改正に伴い原則身体拘束を禁止とし指針作成と研修を実施している最中です。	現在、身体拘束防止の指針作成に取り組みながら、スピーチロックを防止するため、管理者や職員同士でその場で注意し合っているほか、年に一度事業所内で身体拘束防止の研修を行っている。帰宅願望の強い利用者もホームで穏やかに過ごせるよう、電話で家族と話をさせていただくように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を実施し、どのような時に起きどのように防げば良いのかを話し合う機会を年に一回は行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の基礎的知識として過去に何度か実施し現在は必要に応じて個別に行う事している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不明な点や疑問があれば丁寧な説明を行うように心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や利用者からの意見を求めながら運営に努めている。	入居時に、本人・家族にターミナルケアについて、医療と介護との連携が適切に行われていることを説明し了解を得ている。契約上は入院期間を3週間としているが、家族の希望を入れて、その期間を超えてた場合でも直ちに退所になることがないようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進会議に職員も参加し意見の反映に努めている。	職員の申し出による外部研修の受講や職員事情を考慮した人事異動も行われているほか、有給休暇取得時のシフト変更など、働きやすい環境に配慮している。利用者のレクリエーションを午前中に変更し入浴を午後にとの職員意見の具体化を検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	子育てしやすい職場環境づくり、就労時間の柔軟な対応		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加の機会をできるだけ作り参加するようにしている。資格の取得にも積極的に協力しスキルアップを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他職種、他事業者との情報交換など交流は積極的に行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境変化の不安軽減、安全性や安心感を確保するためサービス内容の説明を行い施設の見学したり必要があれば体験入所も実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初めて介護サービスを利用される方は特に時間をかけてサービスの理解に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や利用者のニーズの特性を検討し他職種に繋げる場合も視野に入れ相談援助を実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	身体介護のみならず生活の支援も行うことでその人の生活が維持できるよう努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族のニーズを共有し可能な支援に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所することで地域との付き合いが遮断されないよう面会に来所された方も会話をし在宅中の活動や交流状況の把握に努めている。	知人や家族の面会が多い。入居以前からの地域との繋がりを大切に、地元の商店にも買い物に出かけている。また多くの利用者の馴染みの場所である釜石大観音には、毎年出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	施設が在宅サービスと併設運営されており利用者間の交流の機会が多く刺激の場になっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その後の経過について家族や関係する事業所に面談や問い合わせはしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向、家族の意向の把握をしその調整支援も行っている	利用者と家族から終末期の意向を確認している。利用者の手術や治療の在り方など、様々な意見について医療機関に伝え、調整している。職員の担当制を導入し綿密な意向を把握するよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活環境の変化は本人の生活に大きく影響するため可能な限り要望を聞きとり持ち込めるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族の協力も求めながら生活の主体者となるよう心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成担当者と居室担当者と共同でプラン作成しカンファレンスで評価作業をしている	定期的見直しに加え計画と現状にズレが見えてきた際にも、担当職員がモニタリングを行い、それを基に職員間で協議し、面会にいられた家族等の意見や希望を踏まえたうえで、介護計画を作成し了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状態をつぶさに観察し経過を職員間で引き継ぎ対応している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	従前のサービスに囚われない様、多様に支援できるように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	福祉機関、民生委員、行政機関、教育機関等の方たちと地域の課題を協議する会合に出席している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との連携を図り看護師が主体的に受診治療の支援を行っている。	利用者や家族の希望を確認し、それぞれのかかりつけ医を受診している。訪問診療3名以外の通院者には家族等が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護と医療職関との関わりは常に連携を図れるようカンファレンス同席し対応に当たっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関の医師、看護師、医療相談室MSWと常に連携を図りながら本人や家族の支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	在宅診療と連携を図り看取り体制を確立し希望があればその対応は可能な状態にしています	家族も泊り、看取りを行ったことがある。看取りの指針に沿って、利用者・家族の意向を確認して対応している。医療との連携により、不安のない終末期ケアが行えるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を経て心肺蘇生法の訓練を受けて急変時の対応能力アップを図っています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施しており防災計画を作成しました。	地盤の安定した高台に位置し、震災時には70名の被災者を受け入れた。過去の経験から水の重要さを感じ常に確保を心がけている。消防署の指導で夜間想定訓練も実施している。通報システムや非常食等の備えは出来ている。	夜間避難訓練により、屋外の照明と近隣住民の協力体制が課題となっている。運営推進会議の席で議題とし、過去の経験も生かして検討されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に職員間でも話をしお互い意識合うようにして職員同士で注意や声掛けをしている。	入浴やトイレ誘導の際には、直接的な声掛けを避け、難聴者へは優しく声掛けしている。職員は、利用者の長所を褒め、洗濯物たたみや食卓の掃除など、周囲の役に立つことでの満足感が得られるよう気配りしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方的に決めるのではなく話し合いながら決定してもらうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調や都合に合わせて希望にそう支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時など一緒に福を準備し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前後のテーブル拭きや下膳などできる範囲で一緒に行っている。	広いホールで、3施設一緒に賑やかに食事している。3食とも外注の冷凍食品に、手作りの1品とおつゆを添えている。おやつは希望があれば対応している。季節季節の恒例の流しソーメンやさんまの炭火焼きなどは、施設全体の楽しみな行事となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を用い食事量にばらつきが内容把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛け誘導や介助を行い清潔を保っている。歯科による訪問診療で予防治療も行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い排泄パターンを把握し声掛け誘導を行っている。	排泄自立の方が2名、声掛けの必要な方が2名、他の利用者は介助が必要となっている。入居時にオムツを使用していた利用者が、身体状態が改善されて帰宅され、家族に感謝されたこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を用い水分補給や運動などに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は週2回予定を決めているが希望により対応している。職員の人数や都合で断ることもある。	入浴を拒否される方は居ないが、入浴順の不满があり、ローテーション方式で対応している。汗をかいた際にシャワー浴を希望される方もいる。週2回の入浴を基本にしているが、弾力的に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に居室とホールを行き来してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての薬の把握はできていない。個別の薬の説明書を読み理解するようにしている。必要に応じて薬剤師に相談もしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室担当を決め深く把握できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	当日の車両の都合もあるので前もって居室担当と決めていく事が多い。散歩など近場であれば当日でも対応している。地域の方の協力はできていない。	買い物を希望される利用者が多く、出来るだけ応じている。好天時には近くの梅畑に散歩に出かけ、広いホールでの3施設合同の運動会やその他のレク活動は、親睦を深めるだけでなく、ストレス解消の機会にもなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	毎週木曜日にパン屋さんが来てくれる際、支払い能力を見極め支援している。難しい方は支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話できるように支援している。手紙は行っている方もいるが積極的に取り組んではない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーションで装飾作りを行ったりし施設内には季節感が出るように工夫している。また、不快なおいがないように消臭・換気に努めている。	小規模多機能センター、高齢者優良賃貸住宅の利用者30名位の方々が、ホールで一緒に過ごしている。ホールには3施設合同の「月間デイ」に入賞した様々な作品が展示され、最近入居した利用者からは作品の出来を褒める言葉が聞かれる。施設を越えた労わりの気持ちが相互に芽生え、穏やかな空間となっていくことが期待される。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテレビの前などは軽作業を行う方々が集まりやすい様努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ・冷蔵庫・仏壇など制限なく過ごしやすい環境作りをしている。	ベッド、クローゼット、手洗いを備え、仏壇、テレビ、冷蔵庫を持ち込んでいる方もいる。気に入った装飾品等を持ち込み、それぞれが安らぎを抱いている。全体に調和のとれた衛生的な居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事の席の工夫や見える場所での洗濯干しなど工夫しているが個別に行っていることは少ない。		